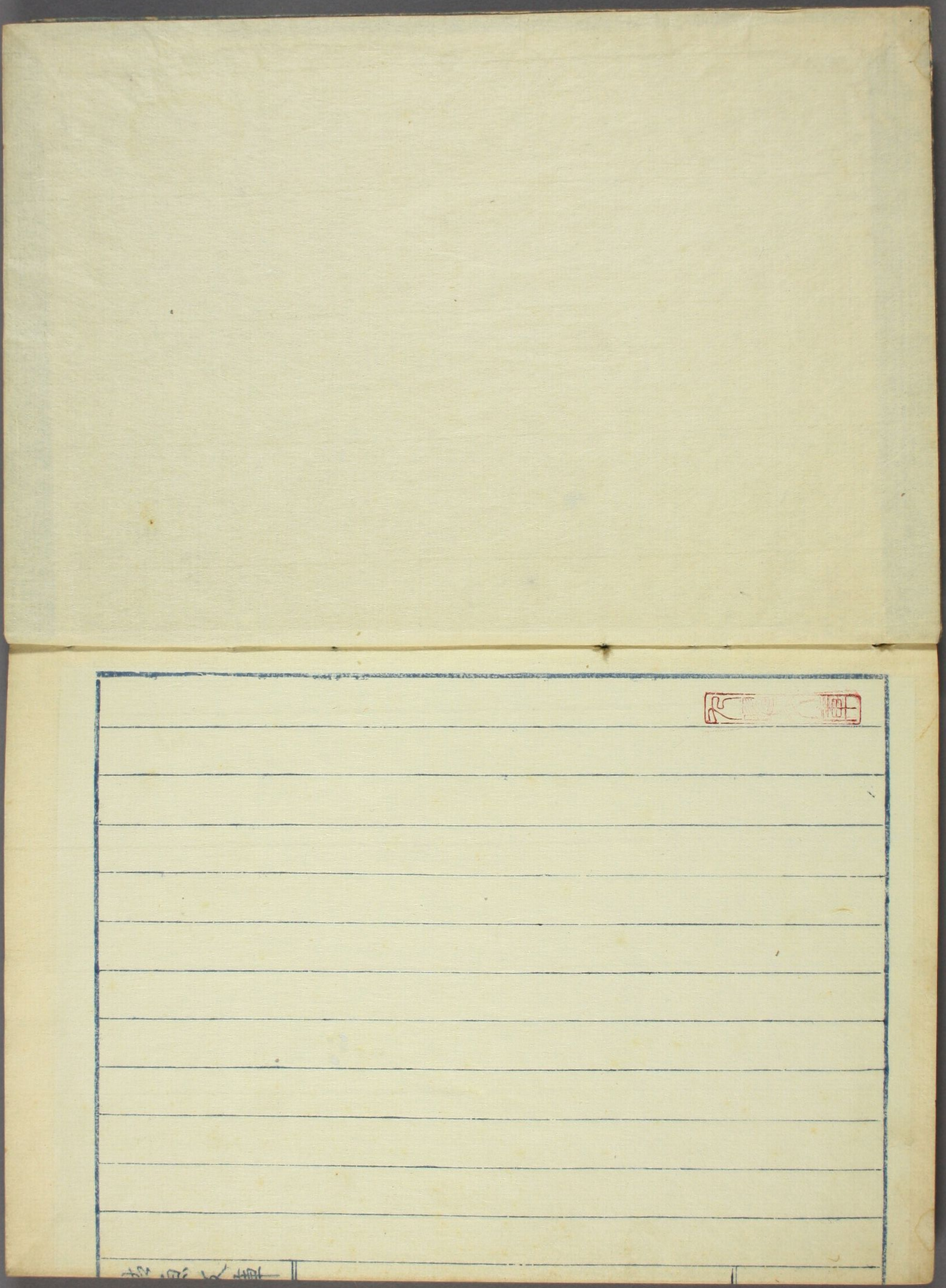
初楓賀



紅葉賀　是は八月をとりて名ぶ。但世事を弘ぶ。次ぎに

八月に行はる。試楽の日うつくしげ

とあり。又花宴巻に御紅葉の賀とあり。又後の巻の巻に朱雀院

の紅葉賀といへる事物語に出でたれども

此巻とせるは、是のみなり。此巻に紅葉の賀

しの事へたりとあり。又春日の巻に

本行のる事は紅梅の巻とあるべし。

此例とせるなり。花宴の巻に細殿とは七年出家する弘徽殿

東の殿の事なり。又紅葉賀は

寺大法師等奉賀、天皇満四十、太上天皇の御賀は淳和天

皇天長二年十一月奉賀、太上天皇五八之御齢也。此巻は源氏十七の十月より

十八の七月とこの巻に有る。十月を用ひ給ふ事



朱雀院の行幸は、神無月の十日あまり

ばかりなり。行幸は、

法皇五十賀、さし醍醐の御

門の代に朱雀院と申す

平法皇の御事なり。彼行幸は

賀は三月の

[illegible]

是則寛平法皇の

[illegible]

内裏崩御の

は寛平法皇は正月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行幸 細菜邑云天子車駕所至見令長三老官屬親臨新作樂賜以食帛民爵百級或賜田
租故謂之幸 晉灼曰民臣被其德以爲優倖也又顔師古云幸者可慶幸也故福喜之事皆
稱爲幸

詩序云河南京兆之所 河南京兆の民花月の詩樂調樂なとを作るなり
是所の風俗美盛なるを作るなり

源の朝臣の中納言の詩に云河南宮譜云此曲東和御時大納言良峯安世朝臣奉勅命作此舞
時依勅改盤渉調但詠小野篁朝臣作詠と云詩の中に

詠曰 桂殿迎初歲 桐樓早年媚 燕花梅樹下 掠燕畫梁過
弄裝束青色袍表袴裄 細蘇の袍ひとへ 蒲萄深紫袍裏蒲萄 大海賦羊臂也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺のやうにひろめてとあるやうにて無拾遺にて

春宮の御[illegible]元延喜十六年三月御賀有詩会 今奚皇太子 [illegible] 此時太子八保明太子

[illegible]のこゝろつゞけをとゝ 同をとゝ

日とひの源氏の[illegible]

[illegible]

細[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋風樂　河盤渉調也
其後源氏の中納言三位家
奉賀時有叙位之例師延
三位　源氏の中納言正三位
四位下也　師　双中将
正四位下　加階

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細殿の人々[illegible]

[illegible]

の疫癘[illegible]

河物忌令曰祖父祖母父方者服九日服五月母方者服九日服三月孟月細殿[illegible]陰服十二月[illegible]

[illegible]

[illegible]

為之ヲ河海ニ取事書ヲ
河云文武天皇慶雲元甲辰十
二月此年天下諸国疫疫百
性多死ス始ヲ作ル土牛始追大
儺ヲ御記ニ云今年愁鬼ス
此依不儺疫鬼宜仰取
司

とぶらひしかばいとてのもと
人はなほ
そぐらんかぶかといらてなほいとたとふ
て出ふくらおいとたとふ
いでくてまつまに姫
くちまもるもふ
ひかるて条院のよ
むとよるも
たまつてひめの中の源氏のさま
つ海ひくて
ふくらんかぶかといらてなほいとたとふ
しくめ出こ
なるくんと
あくくく少なと
なくくくくくくく
こを
一向
なくくくくくくく
なくくくくくくく
なくくくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぬ・けものの[illegible]と・世人をさそ[illegible]

[illegible]

世の中[illegible]

なげこゆいとどしく・このことを密通[illegible]

[illegible]

いくづくるなりぬべ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くくのこいひやるものなりてうたるふ
細ほそ
ねうくしとみうそし　くくのこいひやるものなりてうたるふ
細ほそ
ねうくしんのかたいひをうどもちさを・そ
金魚とし黄魚のいろし
ちくちくとみむつひのん
細ほそ
ねうくしんのかたいひをうどもちさを・そ
つたなくこうたるの指ハせ蛭ぶて・金蛭を
細ほそ
ねうくしんのかたいひをうどもちさを・そ
もしとこすのく蛭ハ蛭
をたるかたるかたるのや
うもなくハ指のかく
と黄魚ばいうたるやうも宮ちとん
むつびたるどんのうつまくかたせとたるんのうつまくかたせとたるんのうつまくかたせとたる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
源の[illegible]
の[illegible]

例[illegible]
[illegible]
けづのいと[illegible]
[illegible]
[illegible]

とも　をりもふるうゝ　見し　ゆ　ゆ　ゆ

ちうれんあふこまるい
かなをとこ

を恨らうるおんなの孟子こそとのれ
年老初びさせるひめれどうゆうのさは
えもぐさせ孔子どうねめよろうんぐどぐ
もとうもてあるをばこととのてて

なく咲今も変らぬ
喜る祖徴とかたんな
のあん細典侍堂侍八云
るこるる

すてをかちて事もなく
こうるのかるるるや

やーれかり
めたれがよるるやづう

源ふいはるものあるもと
てをれなびあるなよ

一人は母うるてあるなるこをいひふ

を源をかうれをれ
るるるのあふるれの

き孔子かるるるるこるるのるこるる

ふるもなるく帰あるる
しもけるめるれる

めるるるみやあんぐめどあやーるる

るるつのをるるるるる
るのるるるるるるるる

源のるるるるるるる

私記ニ十三云御髪御髪事侍臣之間撰堪事之人供無定例皆著當色袍謂之御袴染紫色絹也

納蔵人所今案ハ

紫のうへの御ぬぎかけて

[illegible]

原の原の原の[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今序逸者其声樂怨
者其吟悲

河温明殿

細催馬樂山城呂の行の
河山しろのこまのとろの

催馬楽 石宇利
天仁也良以し
催馬楽 花山城

なといひくんむ〜のくんと〜行〜あ行りつまと沙ゆく各可随取好剉刈事 白氏文集第十
夜河歌者宿剉刈夜泊鸂鶒刈江秋月澄徹隣舩有歌者発調堪愁絶歌罷継以泣泣
声通復咽尋声見其人有婦顔如雪獨倚帆檣立婢婢十七八夜涙似真珠雙々隨明月
借問誰家婦歌泣何凄切一一問一霑襟低眉終不語 師云鴨鶒刈ハ剉刈の内 ありり
河文君事史記云卓王孫有女若新寡好音云云略之 業之剉刈 牧は刈汐欲
師角行 ちとい〜ゆ〜〜て山城の行さ〜〜ひ〜〜る法 剉刈して樂天の行と同よ又ひ
ま〜〜るれ如何 荒け文君を定家卿のなかい剉刈 ま人むしの人てと行河働よ
ま〜〜ふを おれ〜〜剉刈の行和汐ひ色ま〜〜ふと泣せれ〜〜ふ〜〜ふ〜〜ふと行をふ〜〜ふと
原氏亭のあの剉刈のかのふ〜〜ふを原天の同しよ色の砂ま〜〜ふと彼剉刈の女ハ十七八
のとの〜〜ふ原同行をさ〜〜ふ〜〜ふ齢也顧あ〜〜ふ〜〜ふ〜〜ふ〜〜ふ〜〜ふ〜〜ふ愚を
こい文君れ〜〜ふ〜〜ふて見ひ〜〜ふて千ふれい卓文君年ふて司馬相如ふ〜〜ふられて
白頭吟と云行ふ〜〜ふて相如是を〜〜ふ〜〜ふてわ〜〜ふれ文君を〜〜ふ〜〜ふ原同行ふ〜〜ふ〜〜ふ毎ふ〜〜ふ
て人のり〜〜ふて なを〜〜ふ〜〜ふ〜〜ふ〜〜ふ〜〜ふ〜〜ふ

れとうぶ　孟源の宣旨をうけ
しらるるとつつみるとこ
ひ中納言
こうぬやと　源氏
よりてこうのうとやのたん
みこうぬんかやいとんと
こ一面めさこ面とい孟を
ともせさうえ河内守の
ふ分めしるる紙面めて
源氏のねつるふ泡ら
ちるく
すすしうこ　細殿
けに内侍を忘ふこせて
ことをとく　仲内侍の
なるく
せとおく　おきんく修理大夫
を源氏の和ふてうく
くのの　河衣通姫が
せこうくと　宣旨のかうさ
ふのくのの　のるひうも
てちうこ　細殿の手く
さうもいて　細殿の手く

とるるに　これをうひしるるてのいとこれ
うるぬうこ　ぬとこうぬ　源のあるとく
きどうこ　きこうてけるてう
きどうこてこうのやといんんもひてう面
ぬこうぬんかやいとんと
こ一面めさこ面とい孟を
めきこ面　風　具平親王の
ちめうめ　うちめうて　やうけ
ともせさうえ河内守の
ふ分めしるる紙面めて
源氏のねつるふ泡ら
ちるく
なんで　やぬ　内侍
ねるこめこてこのなれが　中納言
ことうとく　つけてひ中将
とけもひうこ　なるる　ちるる　するうすう
のうこふこてひうこ　源氏
ちるくく　俊賢
せこうくと　宣旨のかうさ
ふのくのの　のるひうも
てちうこ　細殿の手く
さうもいて　細殿の手く

つ　源氏
ちるくく　俊賢
つ　源氏
つ　いでなんよ　源氏
ふるひいちうこ



らんするるむ　内侍の源氏
しいうるとて　俊賢
ねるうこ　俊賢
こかくく　俊賢
こうるとて　俊賢

のうとるこて　源氏
どうる　中納言
うこ　光
ぬるる　源氏
いうこうこ　源氏
ぬるる　源氏
うのうこ　源氏
ぬるる　源氏

いうこうこ　源氏
ちうこ　源氏
ちうこ　源氏
ち

[illegible]
孟鳴呼 仰 [illegible]
[illegible]

[illegible] 孟殆や
仰や [illegible] 中
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

つもめるあやすいてんひようつく

[illegible]

つもめる 細原の[illegible]

ほこうぶる中のこゝをふくよとうさぐ

もゝかつくるとく仰わこ

[illegible]

むかしもゝとゝ

[illegible]

ちつかくんといふふみ

[illegible]

細行のこゝあ[illegible]

[illegible]

うまなよゝと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源氏の物がたりをもつくりかへ
河わたる冷泉院の内外男
新王まうでしたりしつとつくりとる
源氏物語九たび紙有倒れ
仰ものもなくて八橋はい茂
ものなくてかめのあめ
こことてんいとくさ
茂つるの霧ふしを物ふ
まいとくと

むづひちらくと成て・けふ宮と成ぬ（細ふつかの内侍の内侍冷泉院の仰事）
河わたる冷泉院の内外男
新王まうでしたりしつとつくりとる
源氏物語九たび紙有倒れ
仰ものもなくて八橋はい茂
ものなくてかめのあめ
こことてんいとくさ
茂つるの霧ふしを物ふ
まいとくと

おとをとぐ・はてしかとこれてんとくちまつ・
源氏の物がたりをもつくりかへ
ものもなくて八橋はい茂
ものなくてかめのあめ
こことてんいとくさ
茂つるの霧ふしを物ふ
まいとくと

そてゑをとぐふ・ちごなるさ物をきき
されとまつるの内侍ちくぬ
ぬれいくとひなるは伝
もとはかのものとのもとを
ものくさせ伝る

なりて・はてまつるの内侍ちくぬ
ぬれいくとひなるは伝
もとはかのものとのもとを
ものくさせ伝る

てくさでくいとく
はてしてちくこよ伝とつく
第三段

細は伝も物の業をして講人の
内侍業し仰業つかと伝る
ものふとを伝ものこと物の氏ものを
られと朱雀院の代ちつさ
ぬれいくとひなること物の氏ものを
皇太后ものふへしと

おりて・されど天子朱雀院の代とのもの
茂るのれ世いとちくなる
きばくとぐなるは伝る・おりの
とめとぐさくしさせのひる・けふ春
けふ春の内侍の内侍冷泉院の仰事
こてふものふとをとをとりてげ
ものもつとも
女房の細は冷泉院

きばくとぐなるは伝る・おりの
とめとぐさくしさせのひる・けふ春
茂るのれ世
ものもつとも
女房の細は冷泉院

茂るのれ世
ものもつとも
女房の細は冷泉院

ひぐくさてて
しの仰伝細の内侍内侍
ほうこのうちもひやれ
花中宮の行啓の風輩

せのくもさくく（細はくさくく入内）
はくさくく・はてしの
はくさくく・はてしの

宰相の君（源氏物語の宰相の君）
はくさくく・はてしの
はくさくく・はてしの

くくしくくふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]